

地下鉄博物館所蔵の 「日本初の地下鉄車両 1001号車」が機械遺産に認定されます 東京メトログループ所有物では初認定となります

東京メトロ（本社：東京都台東区 社長：山村 明義）は、地下鉄博物館所蔵の「日本初の地下鉄車両 1001号車」が、2017年8月7日（月）に一般社団法人日本機械学会より「機械遺産第86号」として認定されることをお知らせします。

「機械遺産」とは、歴史に残る機械技術遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、日本国内に現存する機械技術面で歴史的意義のある遺産を同学会が認定するものであり、2007年より継続的に実施され、昨年度までに83件が認定されています。

今回、1001号車は、①「1927年12月に東京地下鉄道が東洋初の地下鉄として営業を開始した上野～浅草間 2.2km を走行した車両を当時のままに復元しており、資料的価値が高いこと」、②「国内初の打子式 ATS（自動列車停止装置）が装備されているなど国産地下鉄の技術発展の基礎を示す車両であること」が評価され、東京メトログループの所有物において初めて認定されることになりました。

今後、「機械の日」である8月7日（月）に東京大学情報学環・福武ホールにて開催される日本機械学会主催の認定式をもって正式認定される予定です。

機械遺産に認定された「日本初の地下鉄車両 1001号車」の詳細は、別紙のとおりです。



1001号車外観



1001号車内観

日本初の地下鉄車両 1001号車の概要

車両の主な特徴

- 車体は全鋼製（ドア・窓枠等一部を除く）

車体の難燃化を図るため、当時主流であった木製車両ではなく、鋼鉄が用いられました。

- 日本初！自動列車停止装置を装備

日本で初めて自動列車停止装置（打子式ATS）を搭載し、安全性の向上を図りました。

- 当時では珍しかったドアエンジンを搭載

当時鉄道省で試験されていた国産の自動戸閉装置を搭載し、全扉の開閉を自動化しました。

- 吊手はリコ式（スプリング式）を採用

使用しないときは、ばねで跳ね上がり、走行中に左右に揺れない構造のリコ式吊手を採用しました。

- 客室灯はおしゃれな間接照明を設置

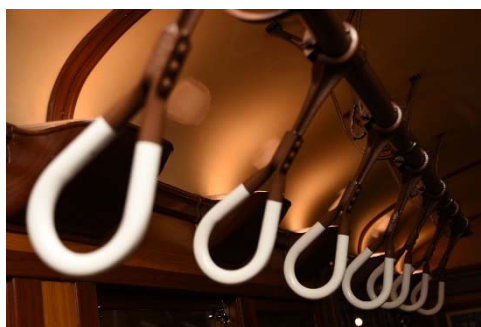
地下という環境を考慮し、直接光が入っても眩しくなく、影が出来ないように間接照明を採用しました。

車歴

- 1927年 11月 日本車両製造にて製造
- 1927年 12月30日 東京地下鉄道上野～浅草間で営業開始
- 1968年 4月 営業運転から引退
- 1969年 12月 展示のため営団地下鉄から交通博物館へ寄贈
- 1984年 5月15日 地下鉄博物館開館に伴い、交通博物館から地下鉄博物館を運営する財団法人地下鉄互助会（現在の公益財団法人メトロ文化財団）へ長期貸与
- 1986年 7月12日 地下鉄博物館において展示開始
- 2009年 2月 平成20年度経済産業省近代化産業遺産に認定
- 2016年 12月5日 地下鉄博物館開館30周年を機に、東日本旅客鉄道から公益財団法人メトロ文化財団へ無償譲渡され、現在に至る
- 2017年 3月10日 国の重要文化財指定に向けた文化審議会の答申を受ける



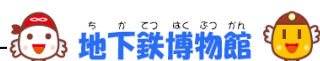
東京地下鉄道社紋と車番



リコ式吊手と間接照明



予備灯とドア開閉スイッチ



1 場 所 〒134-0084 東京都江戸川区東葛西 6-3-1

2 アクセス 東京メトロ東西線 葛西駅高架下

3 開館時間 10時～17時（入館は16時30分まで）

4 休館日 毎週月曜日（祝日・振替休日となる場合はその翌日）

年末年始 12月30日～1月3日

5 入館料 おとな 210円 こども 100円（満4歳以上中学生まで）

6 電 話 03-3878-5011（10時～17時）

7 H P <http://www.chikahaku.jp/>